平成26年３月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年８月９日

上場会社名　　そーせいグループ株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　4565　　ＵＲＬ　http://www.sosei.com/
代表者　　（役職名）代表執行役社長（兼取締役）ＣＥＯ　　（氏名）田村　眞一
問合せ先責任者　（役職名）執行役副社長ＣＦＯ　　（氏名）虎見　英俊　　ＴＥＬ　03-5210-3290
四半期報告書提出予定日　　平成25年８月14日　　配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無：　無
四半期決算説明会開催の有無　　：　無

（百万円未満切捨て）

１．平成26年３月期第１四半期の連結業績（平成25年４月１日～平成25年６月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年３月期第１四半期	69	△66.0	△676	－	△677	－	△608	－
25年３月期第１四半期	203	△14.7	△613	－	△653	－	△653	－

（注）包括利益　26年３月期第１四半期　△616百万円（－%）　25年３月期第１四半期　△630百万円（－%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年３月期第１四半期	△50.99	－
25年３月期第１四半期	△55.25	－

（注）当社は、平成25年４月１日付で普通株式１株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「１株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後１株当たり四半期純利益」を算定しております。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年３月期第１四半期	6,278	5,931	89.3	469.32
25年３月期	6,794	6,511	89.7	511.14

（参考）自己資本　26年３月期第１四半期　5,606百万円　25年３月期　6,093百万円

（注）当社は、平成25年４月１日付で普通株式１株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「１株当たり純資産」を算定しております。

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年３月期	－	0.00	－	0.00	0.00
26年３月期	－				
26年３月期（予想）		0.00	－	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

３．平成26年３月期の連結業績予想（平成25年４月１日～平成26年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,850	45.6	△400	－	△300	－	△300	－	△25.16

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

当社は年次での業務管理を行っておりますので、第２四半期（累計）の連結業績予想の記載を省略しております。詳細は、添付資料Ｐ．４「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：　無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年３月期１Ｑ	11,946,100株	25年３月期	11,921,900株
②　期末自己株式数	26年３月期１Ｑ	－株	25年３月期	－株
③　期中平均株式数（四半期累計）	26年３月期１Ｑ	11,936,622株	25年３月期１Ｑ	11,833,800株

（注）当社は、平成25年４月１日付で普通株式１株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しておりません。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 4
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 5
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 5
３．四半期連結財務諸表 …… 6
（１）四半期連結貸借対照表 …… 6
（２）四半期連結損益及び包括利益計算書 …… 7
第１四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当社グループは、日本及び英国の子会社を中心にグローバルに医薬品の研究開発事業を展開しており、主な収益源は、開発の進展に応じて導出・販売提携先より当社グループに支払われるマイルストン収入やロイヤリティ並びに医薬品の販売による収入等です。

当第１四半期連結累計期間における経営成績は以下のとおりです。

①業績の状況

ａ．連結経営成績

（単位：百万円）

	前第１四半期 連結累計期間	当第１四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高	203	69	△134
売上総利益	78	30	△47
営業利益(△損失)	△613	△676	△62
経常利益(△損失)	△653	△677	△24
四半期純利益(△損失)	△653	△608	45

（売上高、売上総利益）

当第１四半期連結累計期間の売上高は、前第１四半期連結累計期間に比べ65.8%減少し、69百万円となりました。当第１四半期連結累計期間においては、ＮＶＡ２３７のロイヤリティ（平成25年１月から３月分）の計上が増加要因としてあるものの、前第１四半期連結累計期間にあったあすか製薬株式会社への売上がなかったため、134百万円の売上高の減少となりました。

（営業損益）

当第１四半期連結累計期間の営業損益は、前第１四半期連結累計期間に比べ62百万円悪化し、676百万円の損失となりました。これは主に上記の売上高の減少によるものです。

（経常損益）

当第１四半期連結累計期間の経常損益は、前第１四半期連結累計期間に比べ24百万円悪化し、677百万円の損失となりました。これは主に上記の売上高の減少によるものです。

（四半期純損益）

当第１四半期連結累計期間の四半期純損益は、前第１四半期連結累計期間に比べ45百万円改善し、608百万円の損失となりました。これは主に前第１四半期連結累計期間より売上高が減少したものの、少数株主損失を計上したためです。

ｂ．販売費及び一般管理費の内訳

（単位：百万円）

	前第１四半期 連結累計期間	当第１四半期 連結累計期間	前年同期比
のれん償却額	397	397	―
研究開発費	106	121	14
その他	188	189	1
販売費及び一般管理費合計	692	707	15

（販売費及び一般管理費）

当第１四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費合計は、前第１四半期連結累計期間に比べ2.2%増加し、707百万円となりました。これはＳＯ－１１０５の臨床試験関連費用が発生したことによるものです。

セグメント別の状況は次のとおりです。

（国内医薬事業）

当第１四半期連結累計期間における国内医薬事業の売上高は、前第１四半期連結累計期間に比べ161百万円減少し、42百万円となりました。これは当第１四半期連結累計期間においてはあすか製薬株式会社に対するノルレボ®錠0.75mg（以下、「ノルレボ錠」）の売上がなかったことによるものです。また営業損益は前第１四半期連結累計期間に比べ83百万円悪化し、166百万円の営業損失となりました。これは主に上記の売上高の減少によるものです。

（海外医薬事業）

当第１四半期連結累計期間における海外医薬事業の売上高は、前第１四半期連結累計期間に比べ27百万円増加し、27百万円となりました。これは当第１四半期連結累計期間においてはＮＶＡ２３７のロイヤリティ収入が発生したことによるものです。また営業損益は前第１四半期連結累計期間に比べ65百万円悪化し、477百万円の営業損失となりました。

②研究開発活動

当第１四半期連結累計期間における研究開発活動は、ＳＯ－１１０５（口腔咽頭カンジダ症）及びナノ粉砕化技術の実用化に向けて開発進捗を図ったことです。研究開発費は121百万円（前年同四半期比13.3%増）となりました。なお、ＮＶＡ２３７、ＱＶＡ１４９につきましては、導出先のノバルティス・インターナショナルＡＧ（以下、「ノバルティス社」）によって開発が進められており、当社グループには開発費用負担は生じません。

国内医薬事業に係る製品及び主要開発品の進捗は次のとおりです。

■ＳＯ－１１０５（適応：口腔咽頭カンジダ症）

開発段階：第Ⅲ相臨床試験中

ＳＯ－１１０５は免疫機能の低下した患者等に発症する口腔咽頭カンジダ症を治療する口腔粘膜付着性の抗真菌剤です。口腔咽頭カンジダ症とは、真菌に属する主として*Candida albicans*（カンジダ・アルビカンス）の感染により引き起こされる口腔及び咽頭内の炎症性粘膜疾患であり、ＨＩＶ感染等による免疫不全患者や糖尿病のような慢性的な疾病の患者に多く見られます。本剤は、ビオアリヤンス・ファルマ（以下、「ビオアリヤンス社」）が開発し、平成18年10月にフランスで初めて承認を取得して以来、現在までに欧州の24ヵ国、米国や韓国において承認されております。当社グループは、本剤を日本でも患者様の利便性に貢献することができる製品と判断し、ＳＯ－１１０５の日本における独占開発販売権を、平成23年５月にビオアリヤンス社より取得いたしました。

なお、本開発品の有効性及び安全性を検証する第Ⅲ相臨床試験を平成25年３月に開始いたしました。

■ＡＰＮＴ（Activus Pure Nano-particle Technology）：ナノ粉砕化技術

当社の100%子会社である株式会社アクティバスファーマが保有している創薬基盤技術、ナノ粉砕化技術（以下、「ＡＰＮＴ」）の特徴は、難溶性の医薬品原料を50-200nm（ナノメートル）レベルの結晶粒子径に粉砕しつつ、既存技術で問題となっている不純物の混入を極めて低く抑えることが可能という点にあります。この特徴を活かし、これまで開発が困難であった難溶性薬物の注射、点眼、吸入製剤への応用を検討しております。現在は、医薬品の製造販売に多くの実績とノウハウを持つ東亜薬品株式会社、同社の子会社である日東メディック株式会社とナノ粒子化医薬品を用いた共同研究を進めております。

ナノ粒子を応用した眼疾患治療のための医薬品開発を目的とし、岐阜薬科大学と共同研究契約を元に新規後眼部疾患治療薬の研究開発に取り組んでおります。後眼部疾患とは主に糖尿病性網膜症や加齢黄斑変性症等の網膜疾患であり、これらは中途失明などの視覚障害の主要な原因です。本研究では既存の治療方法とは異なり、後眼部に効率的に薬物を送達しうる新規点眼剤製剤を開発し、患者利便性の向上を目指しております。

また、後眼部疾患以外にも、細菌やウイルスなどによって引き起こされる感染性角膜炎や感染から誘導される結膜炎などの前眼部疾患を対象とした点眼剤の開発を目指しております。本研究は平成25年４月に独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、「ＮＥＤＯ」）のイノベーション実用化ベンチャー支援事業（平成24年度補正予算事業）に採択されました。

各社との共同研究・開発の進捗については、特許戦略等の観点から具体的な内容等、詳細を開示しておりませんが、眼科用剤等の分野で、ＡＰＮＴの技術特色が最大限発揮できる製品を開発するべく研究を進めております。

海外医薬事業に係る主要開発品の進捗は次のとおりです。

■ＮＶＡ２３７（一般名：グリコピロニウム臭化物、適応：慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ））

欧州と日本において上市済み、米国において第Ⅲ相臨床試験中

ＮＶＡ２３７（一般名：グリコピロニウム臭化物、製品名：シーブリ®ブリーズヘラー®（欧州）、シーブリ®吸入用カプセル50μｇ（日本）（以下、「グリコピロニウム」））は１日１回吸入の長時間作用性抗コリン薬（ＬＡＭＡ:Long-Acting Muscarinic Antagonist）であり、当社とベクチュラ・グループは平成17年４月にノバルティス社に全世界の独占的開発・販売権を導出しております。グリコピロニウムは平成24年９月に欧州と日本において成人の慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）患者の諸症状を緩和し長期管理するための１日１回投与長時間作用性抗コリン薬（ＬＡＭＡ）として承認された後、オーストラリア、カナダを含む９ヵ国においても承認されました。また、ドイツ、英国、日本等において既に販売されております。

なお、ノバルティス社は米国における承認申請を平成26年第１四半期（１月～３月）に予定しております。

■ＱＶＡ１４９（適応：慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ））

欧州と日本において承認申請中、米国において第Ⅲ相臨床試験中

ＱＶＡ１４９は１日１回吸入の薬剤で、長時間作用性抗コリン薬（ＬＡＭＡ）であるグリコピロニウム（ＮＶＡ２３７）と長時間作用性のβ_2刺激薬（ＬＡＢＡ：Long Acting β_2 Agonists）であるインダカテロールマレイン酸塩の固定用量の配合剤であり、IGNITE第Ⅲ相臨床試験プログラムが進行中です。IGNITEは52ヵ国から10,000名以上のＣＯＰＤ患者を集めて実施され、全体で11の臨床試験（ILLUMINATE, SHINE, BRIGHT, ENLIGHTEN, SPARK, BLAZE, ARISE, BEACON, RADIATE, LANTERN, FLAME）より構成される、ＣＯＰＤに対する国際共同臨床試験の中でも最大級の治験です。最初の８つの試験は、平成24年にすでに終了しており、これらの試験では有効性、安全性及び忍容性、運動耐容能、増悪、息切れ、更にＱＯＬの改善が評価されます。

ノバルティス社は欧州及び日本におけるＱＶＡ１４９の承認申請をそれぞれ平成24年10月及び11月に行い、平成25年７月に欧州における承認勧告を受領いたしました。なお、同社は米国におけるＱＶＡ１４９の承認申請を平成26年末までに予定しております。

（２）財政状態に関する説明

当第１四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ516百万円減少し、6,278百万円となりました。主な減少要因は、Sosei R&D Ltd.買収に係るのれんの償却額が、当第１四半期連結累計期間において397百万円発生したことです。その結果、のれんの残高は、当第１四半期連結会計期間末において3,440百万円となりました。

当第１四半期連結会計期間末における現金及び預金は、前連結会計年度末に比べ264百万円減少し、2,273百万円となりました。なお流動資産の総資産に占める比率は39.8%、現金及び預金の流動資産に占める比率は90.9%となりました。

当第１四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ64百万円増加し、347百万円となりました。主な増加要因は、ノルレボ錠の仕入により買掛金が58百万円増加したことです。

当第１四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ580百万円減少し、5,931百万円となりました。主な減少要因は、四半期純損失608百万円です。また、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.4ポイント減少し、89.3%となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

売上高は、ノルレボ錠の販売収入、グリコピロニウム及びＱＶＡ１４９のマイルストン収入、そしてグリコピロニウムのロイヤリティ収入があるものと予測いたします。また、平成25年４月に株式会社アクティバスファーマにおける「ナノ粒子を応用した画期的点眼剤の開発」がＮＥＤＯのイノベーション実用化ベンチャー支援事業に採択されましたので、その助成金の収入を営業外収入として見込んでおります。その結果、通期の業績予想は、売上高2,850百万円、営業損失400百万円、経常損失300百万円、当期純損失300百万円になるものと予測いたします。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、当第１四半期連結累計期間において、そーせいコーポレートベンチャーキャピタル株式会社を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,537,527	2,273,290
売掛金	43,572	65,904
商品及び製品	―	94,763
その他	33,632	67,811
流動資産合計	2,614,733	2,501,768
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,452	2,345
機械装置及び運搬具（純額）	32,309	29,553
工具、器具及び備品（純額）	20,199	18,340
有形固定資産合計	54,961	50,238
無形固定資産		
のれん	3,837,905	3,440,880
その他	252,404	251,524
無形固定資産合計	4,090,309	3,692,404
投資その他の資産		
その他	34,782	34,330
投資その他の資産合計	34,782	34,330
固定資産合計	4,180,053	3,776,973
資産合計	6,794,786	6,278,742
負債の部		
流動負債		
買掛金	161,785	220,424
未払金	59,869	82,225
未払費用	25,168	23,133
未払法人税等	8,987	5,234
その他	27,148	16,355
流動負債合計	282,959	347,373
負債合計	282,959	347,373
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,059,203	17,089,012
資本剰余金	18,979,943	19,009,752
利益剰余金	△31,228,973	△31,837,640
株主資本合計	4,810,172	4,261,125
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,283,642	1,345,360
その他の包括利益累計額合計	1,283,642	1,345,360
新株予約権	236,238	213,100
少数株主持分	181,773	111,783
純資産合計	6,511,827	5,931,369
負債純資産合計	6,794,786	6,278,742

（２）四半期連結損益及び包括利益計算書
（第１四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年６月30日）
売上高	203,914	69,825
売上原価	125,751	38,914
売上総利益	78,162	30,910
販売費及び一般管理費	692,124	707,512
営業損失（△）	△613,962	△676,601
営業外収益		
受取利息	48	507
その他	16	13
営業外収益合計	65	520
営業外費用		
為替差損	39,183	1,799
営業外費用合計	39,183	1,799
経常損失（△）	△653,080	△677,880
税金等調整前四半期純損失（△）	△653,080	△677,880
法人税、住民税及び事業税	777	776
法人税等合計	777	776
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△653,857	△678,657
少数株主損失（△）	－	△69,990
四半期純損失（△）	△653,857	△608,666
少数株主損失（△）	－	△69,990
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△653,857	△678,657
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,960	－
為替換算調整勘定	25,155	61,717
その他の包括利益合計	23,195	61,717
四半期包括利益	△630,662	△616,939
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△630,662	△546,949
少数株主に係る四半期包括利益	－	△69,990

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

セグメント情報

Ⅰ　前第１四半期連結累計期間（自平成24年４月１日　至平成24年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	国内医薬事業（千円）	海外医薬事業（千円）	合計（千円）
売上高			
外部顧客への売上高	203,914	－	203,914
計	203,914	－	203,914
セグメント損失（△）	△83,167	△411,534	△494,701

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（千円）
報告セグメント計	△494,701
全社費用（注）	△140,530
その他調整額	21,270
四半期連結財務諸表の営業損失（△）	△613,962

（注）全社費用は、単独では収益を獲得しない持株会社に係る費用です。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産についての重要な減損損失の認識、又はのれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間（自平成25年４月１日　至平成25年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	国内医薬事業（千円）	海外医薬事業（千円）	合計（千円）
売上高			
外部顧客への売上高	42,521	27,303	69,825
計	42,521	27,303	69,825
セグメント損失（△）	△166,169	△477,225	△643,395

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額 （千円）
報告セグメント計	△643,395
全社費用（注）	△137,005
その他調整額	103,799
四半期連結財務諸表の営業損失（△）	△676,601

（注）全社費用は、単独では収益を獲得しない持株会社に係る費用です。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産についての重要な減損損失の認識、又はのれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。